

〔曲名〕 Sagra 祭

La Notte 夜

L'Aurora 黎明

Il Canto dei Mietitori 取り入れする人々の歌

Le Campane 鐘

Preghiera 祈り

Tarantella タランテルラ

〔曲種〕 Quadri campestri

〔作曲者〕 Q.Fabbri

ファッブリ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

ムニエルのマンドリン教則本を出版したフィレンツェのラピーニ出版社は

1894年から毎年吹奏楽の作曲コンクールを催して優秀な作品を数多く出版した。

その多くは吹奏楽の為に書かれたものであるが故に仮にマンドリンオーケストラに編曲しても効果は挙がらないし、

又箸にも棒にもかからないが時恰もマンドリン音楽がイタリア全土に興隆しつつあった時で、

曲想傾向が甚だ似ており、中にはむしろマンドリンオーケストラの方が適切ではないと思われるものもある。

本曲「祭」もそうした中の一つで原曲は十一の吹奏楽器に書かれてある。

作者Q.Fabbriに就いては詳細に調べてみたが判明しない。

イタリア著作者名簿にも七名のFabbriがあるがQに概当する作者は登録されていない。

勿論相当詳しい音楽家辞典にも載っていないが、思うに吹奏楽畑、

マンドリン畑には作曲を専門とする作者が少なく音楽辞典に名を留める級の人が少なかったことを意味

する。

本曲の作者Q.Fabbriもこの他に「美しきフリウリアの娘」「ヴィーナス」

「フィレンツェへ」「美しき夢」等があるが本曲が最も力作。

元来「祭」と題する曲は無数にありマンドリン合奏曲でも非常に沢山ある。

人生の中で主な行事、誕生、遊戯、恋愛、結婚、労働、戦争、祭礼、神、葬儀、之等が対象になるのは当然である。

祭は神霊を迎え供物等して慰め祈る儀式であるが、それに伴う色々の行事が賑々しく、本儀を見ようとせず之に附随する催し事に人気が集る。

秋の祭は収穫に関係があり豊作を願ったり、又それを感謝し、規模も大きく祭らしくなる。

本曲は楽章を区切らず続けて演奏される。

模糊とした夜から始って空の色が白け小鳥が啼き暁が訪れる。

遠くから取入れする人々の合唱がきこえ次第に之が拡がり、楽しい収穫の喜びが描かれる。

教会の鐘が鳴り渡り、村人が今日の喜びに胸をふくらませて此処に集ってくる。

荘重をオルガンの奏楽から人々の敬虔な祈りと感謝が始まり之が長々と続きグランディオーソを経て又元の静寂に帰る。

突如マンドラの導入によってタランテルラに入る。

老若男女凡てその渦中に巻き込まれ高潮に達して終る。

(楽譜のタイトルLe Campaneの次にPreghiera祈りを書落したことをお詫びする)

1970年5月20日発行

イタリアマンドリン百曲選第5集より